

県政サポーターアンケート実施結果

この計画の見直しに当たり、県政サポーターの提言や意見を広く聴きました。

- アンケート内容：「埼玉県における今後の地球温暖化対策の方向性について」
- 調査時期：平成 26 年 9 月 11 日（木）～17 日（水）
- 調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答
- 調査対象：県政サポーター 3,367 名（平成 26 年 9 月 1 日現在登録者）
- 回収率：68.7%（回収数 2,314 名）
- 回答者の属性：（百分率表示は、小数点以下第二位を四捨五入したため、個々の比率の合計は、100%にならない場合がある。）

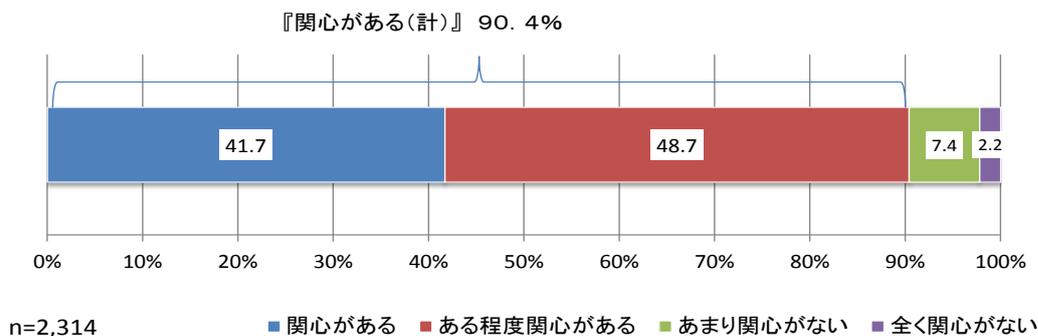
		人数(人)	比率(%)
全体		2,314	100.0%
性別	男性	1,333	57.6%
	女性	981	42.4%
年齢	16～19歳	7	0.3%
	20～29歳	130	5.6%
	30～39歳	382	16.5%
	40～49歳	610	26.4%
	50～59歳	479	20.7%
	60～69歳	416	18.0%
	70歳以上	290	12.5%
職業	個人事業主・会社経営者(役員)	217	9.4%
	家族従業(家業手伝い)	24	1.0%
	勤め(全日・パートタイム)	1,169	50.5%
	専業主婦・主夫	406	17.5%
	学生	30	1.3%
	その他、無職	468	20.2%

【結果概要】

■地球温暖化に対する関心

設問：あなたは、地球温暖化に対してどの程度関心を持っていますか。

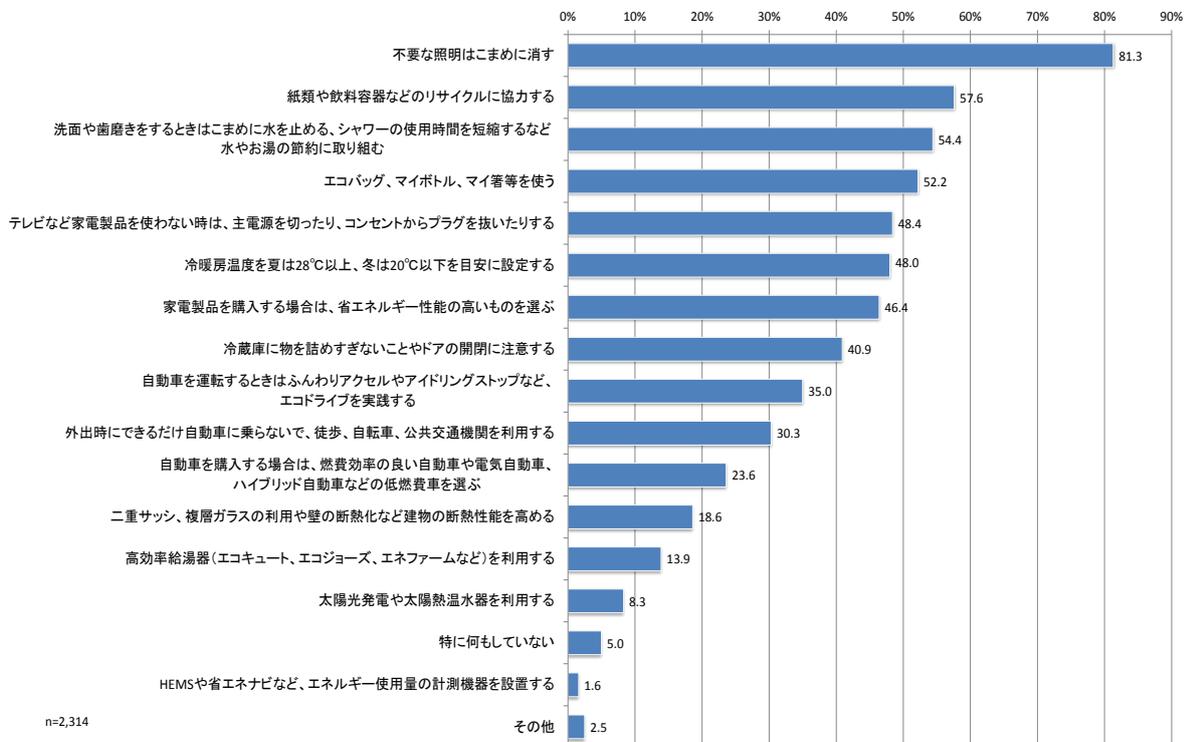
- 「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある（計）』が 9割に上り、高い関心が伺われる。



■地球温暖化対策の行動について

設問：温暖化対策として、あなたが現在、家庭で取り組んでいることは何ですか。（あてはまるものすべて）

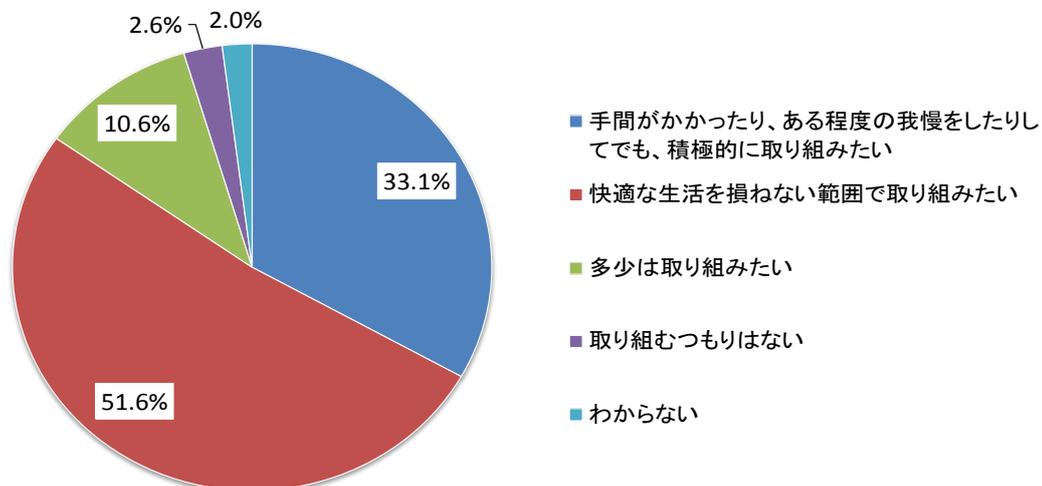
- 日常的な取組の実施割合が高い一方で、高効率給湯器や太陽光発電などの設備導入の取組の実施割合は、2割以下である。特に HEMS などのエネルギー使用量計測機器の導入は、1.6%にとどまっている。



■地球温暖化対策と快適な生活

設問：地球温暖化防止のための取組は、手間がかかったり、ある程度の我慢をしたりしなくてはならない面もありますが、多くの方々が取り組むことでより大きな効果をもたらします。このことについて、あなたはどのように考えますか。

- 「快適な生活を損ねない範囲で取り組みたい」との意見が過半数を占めている。

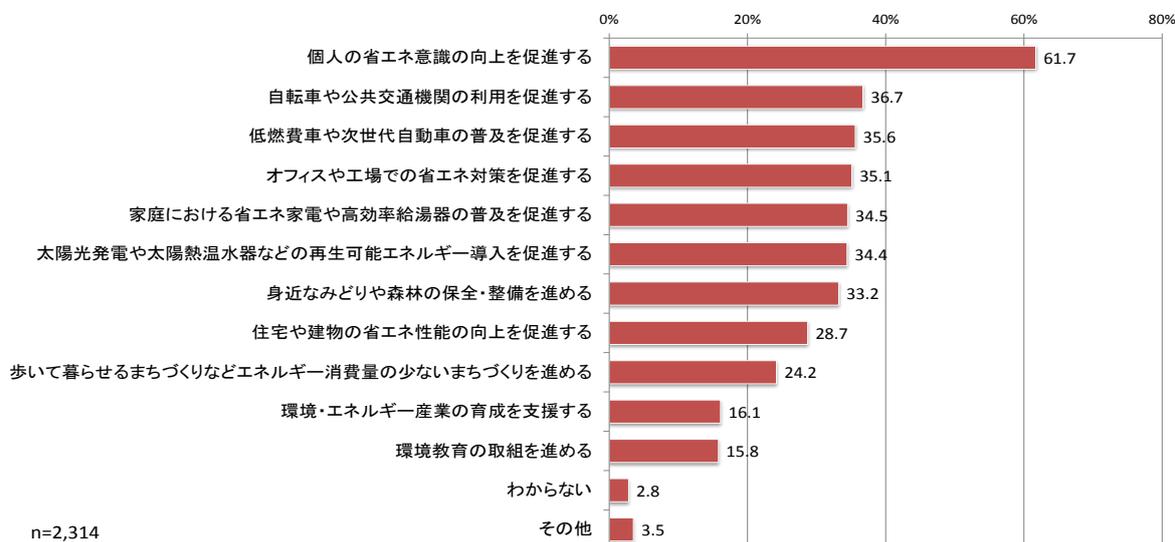


n=2,314

■県として重点的に実施すべき取組

設問：今後、温暖化を抑えるために本県が実施する対策として、どのような取組を重点的に進めていくべきであるとあなたは考えますか。（5つまで）

- 「個人の省エネ意識の向上を促進する」が他の取組に比べて突出して割合が高く、個人の省エネ意識の重要性が幅広く認識されていると考えられる。



■地球温暖化の影響の関心事項

設問：地球温暖化は、猛暑日・熱帯夜や大雨の頻度の増加など、気象及び気候の極端な現象を発生させることが科学的に証明されつつあります。このような温暖化の影響により、本県でも異常高温によるコメの品質不良や熱中症搬送者数の増加などの被害が発生しています。温暖化の影響について、あなたはどのようなことに関心がありますか。（あてはまるものすべて）

- 近年、国内で大きな被害が発生した水災害や、県内で被害が生じている農作物の収穫量・品質への影響や竜巻被害への関心が高くなっていると考えられる。

